

世界を知り尽くした 岡村龍哉

岡村 龍哉の宝石・健康紀行「アイルランド」&「イギリス」編(2008)

「My name is Finlay, I love the fight.」

と突然告げられ、 **アイルランド** の音楽に送られ、 **フィンリー** が登場する。私が大好きな **WWE** (World Wrestling Entertainment) のアイルランド出身プロレスラーの入場曲だ。 **WWE** の 3 ブランド、ロウ・ECW・スマックダウンは、週 3 本、欠かさず堪能している。中でもアイルランド出身レスラーは、彼だけだ。何時どの場所で登場しても **‘緑色’** のコスチュームしか見たことが無い。それだけで愛国者と理解出来る。

彼からアイルランドを感受していた。勝利を挙げた時のアイリッシュダンス、仏頂面の口からユーモア溢れる言葉は、ラテン大阪系広島人には堪らない。 **Mr. ビーン** や **チャップリン** の様にユーモア溢れる表情や姿勢からの言葉やアクションはいかにも楽しいが、硬派からのユーモアの言葉やアクションは本当に愉快で面白い。そこに知性が加われば申し分ない。岡村が目指すユーモアだ。



日本の 1/5 の **アイルランド** (面積: 70, 282Km², 人口: 約 424 万人) の **首都ダブリン** (人口 50 万人、しかし首都圏に総人口の 1/3 約 140 万人が集中する) に到着した。アイルランドと言えば、 **ギネスビール** (黒ビール) である。パブで一息ついた。



店を出ると、緑色に統一された宝石店が「目に飛び込んできた。」寄ってみよう。再び、‘緑色’が飛び込んできた。眩しく鮮やかな輝かしい‘緑色’だ。そう、『エメラルド』だ。

エメラルドには、余り知られては無いが実は 2種類 ある。

- ① 石灰岩
- ② バイオタイト片岩

のそれぞれを 母岩 とするエメラルドである。

① は、南米 コロンビア の ムソー山系 が有名で、②は、ブラジル

などの地質層で採掘される。真珠で例えると、①は、アコヤ真珠。②は、淡水真珠。同じ真珠と呼ばれていても浜揚げ量と価格が断然違う。エメラルドも同様だ。どうやら、前者のエメラルドのようだ。



ここで、シンプルに 『エメラルド』 を説明しよう。

正式名を **EMERALD** (日本名：緑柱石, 化学成分： $\text{Be}_3\text{Al}_2(\text{SiO}_3)_6 + \text{Cr}$, 宝石言葉：幸福・幸運, 5月の誕生石) と呼び、モース硬度(押し込み強度)は、**7.5~8** でアクアマリンと同様だ。名前の由来は、‘深い緑色のイメージ’ を意味するラテン語の「エスメラルダ」という美しい言葉が語源だ。産地は、**コロンビア** が世界産出量の **60%** を誇る。アクアマリンと同種のベリル宝石だが、インクルージョン(内包物)が皆無の石は無い。



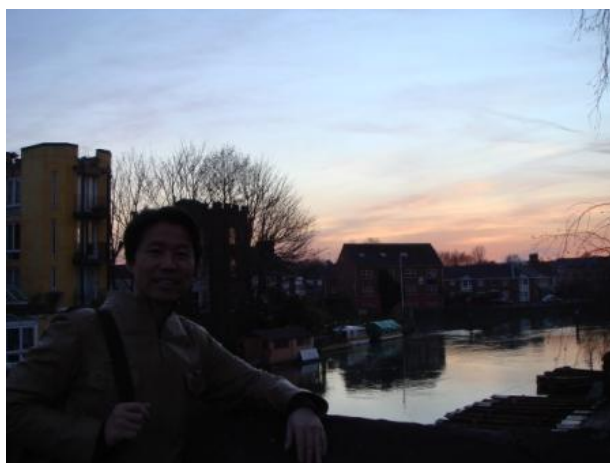
纏わる 物語 としては、古代エジプトの **クレオパトラ** が愛用し、富と

権力の象徴であった話は有名だが、イエス・キリストが最後の晩餐で使用した聖杯、そして、キリストの血を受けた聖杯、どちらも‘緑色の器’『エメラルド』で作られていた。後にキリスト教徒を迫害したローマ帝国第5代皇帝ネロ（悪名高い暴君）が人類で初めて掛けた眼鏡のそのレンズも『エメラルド』だった。



余談だが、イランの元国王パーレビの大エメラルド・コレクションに勝るコレクションは無い。また、たいへん古い歴史を持つ‘緑の石’は、紀元前4000年頃にはバビロニア帝国（現在のイラク南部で栄えた王国）の首都バビロンで既に取り引されていたと伝えられている。古代から、‘緑色の石’の美しさに魅了され、神々しい畏敬の念を込めて愛し、『エメラルド』と呼ばれる頃から、《ヴィーナスへ捧げる宝石》として珍重され続けている。この『エメラルド』の良質の石を購入する際のヒントは、【濃い色で透明感のある緑色】が大事だ。99% 石灰岩に間違いない。ただ、この石は、壁開性（＝木の木目の様にある一定方向に力が加わると裂ける現象）が顕著に

発達しているのので、取り扱いには十分注意したい。対応が素晴らしく心地良かったので、ロレックスのアンティーク時計を「購入した。」（イギリス生まれのスイス製時計は岡村のお気に入りだ。今回の留学でプライベート用 3 本を購入した。もちろん JO にて全モデル購入可能）



「目に飛び込んできた。」 から始まる関心・興味は、欲求が起こり、「購

入した。」に至るまでの序曲だ。こうしたお客様の行動パターンの類型として、しばしば **AIDA** 類型が活用される。

Attention (関心を引く)
Interested (興味を持つ)
Desire (欲求が起こる)
Action (購買する)

の4段階だ。広告やディスプレイなどには特に注意して活用すると良い。



HAVE A NICE DAY！ ずっと交わしたい言葉だ。私が留学している **イギリス** (イングランド・ウェールズ・スコットランド・ノーザンアイルランドの面積：244,820Km², 総人口：約**6000万人**) 『**オックスフォードの街**』を紹介しよう。**1167年** **キング・ヘンリー2世** は **フランス** のパリ大学（ソルボンヌ学寮が有名）と並ぶ地をと考え、イングランドで初めての「**国立大学**」をこのオックスフォードに開校した。現在の人口は **約142,000人**、内、学生は **約28,000人** である。何と5人に1人が学生の計算になる。威風堂々たる学生の街だ。街を歩いていると本当に学生の姿ばかりだ。(私も学生だが・・・) 中世時代の中庭・庭園、バロック調の教会、アシュモリーン博物館など観光名所には事欠かないが、私が感銘した一つには、**‘運河の迷路’** がある。ボートに揺られての学友との語らいは格別の感慨を得た。

学友の中でも **VISTA** (**ベトナム・インドネシア・南アフリカ・トルコ・アルゼンチン**) 出身の学生は学びに本当に食欲だ。岡村と同じだ。次の新興国の主役は間違いなく彼らだ。



イギリスの国旗、 **ユニオンフラッグ**（よく使われているユニオンジャックは船の国籍を示す旗で海事用語である） イングランド・スコットランド・ノーザンアイルランドの国旗を組み合わせた（ウェールズは13世紀末にイングランドに服属したので国旗には反映されず） **‘3つの十字架’** を映し出す瑠璃色は、『**ラピスラズリ**』 そのものだ。ユニオンフラッグを見ながら、

『**ラピスラズリ**』 をシンプルに説明しよう。

正式名を **LAPIS LAZULI**（日本名：**瑠璃**，化学成分：方ソーダ石グループの鉱物を主成分とする岩石，宝石言葉：**永遠の誓い**，**12月の誕生石**）と呼び、モース硬度（押し込み強度）は、**5~5.5** だ。名前の由来は、ラテン語の **‘石’** の意味の **Lapis** と **‘青色’** の意味の **Lazuli** が語源だ。産地は、**アフガニスタン** の岩石が最高品質である。（1979年12月24日の旧ソ連のアフガニスタン侵攻はラピスラズリの権益確保と言う説もある）ラピスに金色斑点や白色斑点の色が着いているのは、**パイライト（金色）** とカルサイト（白色）の混入だ。『**瑠璃**』 は、**七宝の一つ** で日本でも古くから愛用されてきた。夜空に輝く星のように白色と金色が幻想的な様子を漂わせる。傷つき易くデリケートな宝石だが、彫刻の素材としても使用されてきた。

纏わる **物語** としては、古代の人々は、この宝石の美しさに焦がれ、大いなる力が宿ると信じてきた。また、『**幸運を運ぶ石**』 として考え、長年大切に扱われてきた。そして、邪悪なものから身を守る **‘お守りの石’** としても大変名高く、災いを遠ざける力があると語り継がれている。『**ラピスラズリ**』 はピンクゴールドでのコーディネートをお勧めする。すると、**ユニオンフラッグ** の様な伝統と格式を表現する筈だ。また、良質石を選ぶヒントは、**【群青の空の色に金色と白色が点在】** している石を手に入れよう。



左から青、黄、黒、緑、赤の五つの輪は、五大陸（ヨーロッパ、アジア、アフリカ、オーストラリア、アメリカ）を表現する五輪マーク、オリンピック史上初の3回目の開催となるロンドンオリンピック2012は、2012年7月27日（金曜日）から8月12日（日曜日）まで開催される第30回夏季オリンピックで、26競技で行われる予定だ。ロンドンでは早く、オリンピックモードだ。755万人大ロンドン市のロンドンっ子は盛り上がっている。



『井の中の蛙大海を知らず』の諺（紀元前の宋国の道教の祖、荘子の秋水篇「井蛙不可以語於海者、拘於虛也」が原典）は、しばしば否定的表現で引用されている。しかしながら、実はこの句には後段がある。

『井の中の蛙大海を知らず、されど空の高さを知る』

だ。 どの世代でも、 どんな環境でも、 どのような状況でも、 見える空はいつも同じ である。という訓だ。幼少の頃から、「井の中の蛙大海を知らず」と批判されても、明治人岡村は、『青く大きな高い《空》』をいつも見ていた。

その 《空》 は、 《志》 だと胸に込めていた。 ‘青く’ は、 ‘真っ直ぐに伸びた揺ぎなく一点の曇りの無い志’。 ‘大きな’ は、 ‘志の大きさと内包した寛容さと素直さ’。 そして、 ‘高い’ は、 ‘志の中の理想の高さと目指す頂の高さ’ と胸に刻んできた。

オックスフォードで見る 《空》 に私の 《志》 が映し出された。

